



GREEN BREEZE

軽井沢観光協会広報誌



両角(友)選手、清水選手、山口選手、両角(公)選手、平田選手(カーリング男子日本代表)
平昌冬季オリンピック 8位入賞おめでとうございます!
「軽井沢の誇り!感動ありがとう!」



Contents

- 1 対談 2p
 - 鉄路で紡ぐ広域観光
- 2 インバウンド活動報告 4p
 - SHINANO RAILWAY BANZAI 2-DAY PASS
 - 広域連携台湾招聘事業
- 3 Ruiza ちゃん取材日記 5p
 - 2018 軽井沢ウィンターフェスティバルに参加して
 - ワンちゃんとペアルック&一芸コンテスト
 - ラジオ特別番組企画
ホリデープログラム ウェルネスリゾート軽井沢
- 4 軽井沢の話題あれこれ 6p
 - ホスピタリティ講演会
 - ほっち NAVi マップ
 - 第3回軽井沢 WEB 検定
 - Wi-Fi の取り組みについて
 - 軽井沢エコツーリズムの推進について
- 5 軽井沢 information 8p
 - 平成29年度軽井沢写真コンテスト



Special Interview

～ 鉄道で紡ぐ広域観光～



玉木 淳 氏 (しなの鉄道社長) 右
土屋芳春 (一般社団法人軽井沢観光協会会長) 左
(文中敬称は略させていただきます)

観光スタイルの多様化に伴い、軽井沢はエリア内だけで様々な要求に応えることは難しくなってきました。幸いにして「しなの鉄道」沿線の東信や北信エリアは、軽井沢を出発点とする「旧・北国街道」でつながる文化圏を形成し、豊かな食文化を享受できる地域でもあり、特に近年は「千曲川ワインバレー」から生産されるワインが内外で高い評価を得ています。

当観光協会では、今後の観光の要望に応えるため軽井沢を核とした食や芸術・文化・歴史等を広域でつなぐ観光連携をさらに推進してまいります。

今回、地域の足としての存在もさることながら、観光需要の一役を担う「しなの鉄道 (以下、しなの鉄)」社長の玉木淳氏に、現状の課題と今後の可能性、ビジョンを伺いました。(収録日 2月13日)

(土屋) 来軽の日帰り客 550 万人 (町データ 840 万人から下記宿泊データを除いた数) は、ショッピングや観光スポット巡りなどに目的が特化しているため現状では回遊には結びつかず、しかも単に観光地を紹介するだけでは観光的訴求効果は得られません。しかしながら、軽井沢には別荘が 15,000 軒、宿泊キャパシティーも約 12,000 名 (軽井沢町内宿泊数は年間 290 万人※) で、さらに寮なども加えると相当数が年間を通じて滞在しています。加えて数年前より活発化しているホテルの開業や別荘分譲の需要もあり、今後市場は拡大の傾向にあります。日帰りを除くと、客層は別荘客、長期滞在客、短期滞在客とに分かれますが、潜在的には様々な欲求を内在しているものと考えています。さて、この大きな市場をどのように戦略的に生かすか、正に地域の手腕が問われるところですね。しなの鉄のような交通インフラ等を最大限利用するとともに、他に無い“コト”で創客する必要があります。高度化する観光に対し、その一役を担う鉄道会社としての取り組みはいかがでしょう。

(玉木) 東京で調査をしたところ、軽井沢の先に何があるか分からない、

「しなの鉄道」を知らないという事実がありました。そこで①しなの鉄道の認知を上げるために「旧軽井沢駅舎記念館」を軽井沢駅に改装し情報発信する。②北信から東信エリアの豊富な食材や食品を産直列車で運び軽井沢駅ナカ施設「森の小リスキッズステーション」で販売し五感で楽しんでもらいながら沿線のPRを行う。③臨時運行でスーパー快速を走らせ北信等の観光地への日帰り観光圏の拡大を進めています。鉄道会社だけでは誘客に限界があるため、沿線自治体と連携し魅力を高めていきたいと思っています。

(土屋) JR 九州の観光列車運行が火付け役となり、各地で観光列車の運行が始まりました。「ろくもん」も定着してきましたが、改めて鉄道を観光に使う意義とは。

(玉木) ご存知の通り、人口減少は国家の課題ですがこの地域でも避けられません。それを補完するためにも旅の楽しさを演出することが大切で、移動しながら美味しいものが食べられ、ゆっくりとした時間を大切な人と過ごす価値を提供する「ろくもん」の存在があり、特にシニア層に受けており、3年目を迎えた現在でも好調です。私どもは地域の歴史や食などの文化発信

へ寄与したいと考えており、運行を開始してから、園児や地域の方々が列車に手を振るなど、自然に湧いてきた心遣いに感謝をしています。乗客にとっても日常得られない価値を体験していただいているものと感じています。今後、宿泊施設との連携も進めたり、地域と鉄道のコラボによる付加価値を高めること、そしてこれからは増加するインバウンド客に沿線地域の魅力を伝えていきたいですね。

(土屋) 2 Day Pass (詳細は 4 頁) の効果はどうでしょう。

(玉木) 既に多くのインバウンド客が訪れている軽井沢を起点とした旅の提案として、「1888」「BANZAI」「真田神社でお祓いして切符自体を縁起物」にするなど、デザインやストーリーが素晴らしい切符となりました。私たちとしてはこの切符開発に携われたことは、とっても刺激となりました。そして、この切符の発案が軽井沢から発想された意義は大きく、広域連携の掛け声は方々から聞こえるものの、今まで具体化されたものは少なかったと思います。今回の切符で、沿線が心ひとつにつながって具体的に商品化できたことは広域連携の“大きな一歩”と考えています。一方、このような外国



▲しなの鉄道「森の小リスキッズステーション」オープン

人向けの商品は直ぐに効果は表れませんので、私たちの地道な情報発信が必要になり、最低3年くらいの地道な訴求が必要かと思えます。

(土屋) 今後、欧米の誘客を進めるとなると、来日コストに見合うプレミアムな価値とイメージ商品を創らなければなりません。相当高度な発想と提供が求められますね。世界的には鉄道ファンは多く、鉄路にロマンを感じている層も沢山いますので、しなの鉄の可能性はますます広がる気がします。地域の足として、また観光需要の開拓としての鉄路は重要です。

(玉木) 当然ながら、地域の鉄道事業者は安全な運行と安心な移動空間の提供と地域に愛されることが最低限の存在理由となります。しかし、戦略的なビジョンとしては沿線利用者が減少する中、新たな価値を沿線自治体と見つけて魅力や価値をつなぐことにより具体的な観光提案に結び付けていくことが重要になります。例えば沿線のワイバレーの存在がワイントレイン「信州プレミアムワインプラン」の運行につながりました。これにはもう一つの側面があり、「アベリティブと言うフ

ランスの生活文化をこの地域に醸成することができる」その機会となればと願っています。このように地域の潜在力を生かすことは「まだまだある」と感じています。そして、しなの鉄だからこそ得られる地域情報をさらに深めて、地域相互に利用や連携できる機会を創出して行きたいと考えています。また、地元利用の促進も大切です。例えば同窓会や区などコミュニティの利用も提案したいと考えています。今回、2 Day Pass 事業が軽井沢から発信されたことにより、沿線地域は互いに創造する時間が得られました。連携をこれまで以上に強化しながら、共に刺激し合い魅力的な地域イメージが描き出されるか、またより品質の良い地域商品が開発できるかを、良い意味で競い合いたいと思います。

(土屋) 観光客目線で考えると自治体の境は関係なく、旅で豊かな時間を過ごしたい人は時間と費用を有効に活用し、行動範囲も広がります。

(玉木) 地域を越えて人や物、文化を繋げていく。そこは正に鉄道事業者が負う役割ですね。厳しい経営環境にはありますが、様々な要求に応え

て行きたいと考えています。

(土屋) しなの鉄開業20周年を迎え、益々可能性は広がりますね。今までは動脈の幹線がローカル線となり、施設や車両の老朽化が課題となっているイメージでしたが。

(玉木) 現実地域鉄道の経営は厳しいものがありますが、単純には比較できないものの、しなの鉄は他の地方鉄道よりも人口、農産品、学校、商業地区、工業、観光スポット等が多くあり、首都圏からのアクセスも良く、JR新幹線や地方鉄道との接続がある交通の要衝でもあり往来も活発です。しかし、そのような環境を鑑みても鉄道事業は維持費と運行のコストが膨大であることから悩みは尽きません。

(土屋) しかし、かなり活発な活動と情報発信をしていると感じています。

(玉木) 「ろくもん」然り、ラッピング列車や駅舎の改修などの利用促進に様々な取り組みをしています。その根底には、「しなの鉄を守りたい」との強い意識があります。しなの鉄は民間会社ですので、存在意義と利用価値をいかに高め、高額な維持費に耐えていくかが命題です。そのようなことから、地域連携、創客、情報発信、安全・安心な輸送に心がけて行きたいと考えています。

(土屋) 地方では「鉄道の維持や復活を」との声を聴きます。地域の足としての鉄道の意義は大きく、否定するものではありませんが、観光需要の喚起や沿線との連携の重要性について改めて感じたところです。東信、北信を含めたエリア全体を大きな軽井沢リゾート圏とする発想が求められます。

(※)経済産業省「観光予報プラットフォーム」より

『玉木 淳』氏

1970年新潟市生まれ。上智大学経済学部卒業。1993年東京海上火災保険(株)(現:東京海上日動火災保険(株))に入社。各地で勤務後、本店において中小企業向けに商工団体と連携した保険制度を立ち上げる等、中小企業支援に注力。2016年、東京海上日動の地方創生への戦略として長野県の第三セクター鉄道会社である「しなの鉄道(株)」の代表取締役社長として出向。現47歳。



インバウンド活動報告

「SHINANO RAILWAY BANZAI 2-DAY PASS」

この度、軽井沢観光協会インバウンド部会と、しなの鉄道沿線6市町(軽井沢町、御代田町、小諸市、東御市、上田市、千曲市)が連携して、インバウンド向けに2日間使用可能なフリーパスを企画し、平成30年2月1日よりしなの鉄道軽井沢駅窓口にて販売を開始しました。以前から課題となっている、軽井沢から長野県内への2次交通問題を打破する為、少しでも海外からのお客様を長野県内へ誘導する為、地域の足であるしなの鉄道と沿線市町の知名度アップと活性化を図るよう、今事業を展開しました。また、各市町主要駅降車の際、フリーパス掲示で特典を受けられるよう

にするなど、様々な仕掛けを用意しました。これからもインバウンド誘客の為、有効な企画をしていく予定です。



- 名称: 「SHINANO RAILWAY BANZAI 2-DAY PASS」
- 対象者: 海外からの旅行者、在日外国人
- 発売場所: しなの鉄道 軽井沢駅
- 販売価格: ¥1,000
- 有効区間: 軽井沢駅⇄屋代駅
- 有効期限: 2日間
- 販売期間: 2月1日(木)～3月31日(土)
※ただし、3月31日販売分は4月1日まで有効

「広域連携台湾招聘事業」

平成29年11月23日(木)～26日(日)富岡市、安中市、軽井沢町2市1町広域連携協議会にて「ドライブ台湾女子旅」と称し、台湾メディアを招聘。また平成30年1月31日(水)～2月3日(土)こもろ観光局と軽井沢観光協会共同主催のもと、同じく台湾メディアを招聘しました。

平成30年3月23日(金)～25日(日)ながの観光コンベンションビューローとしなの鉄道株式会社と軽井沢観光協会の共同主催のもと、軽井沢に所縁のある一般のインスタグラマーや、大学教授、情報発信員などを招聘し、しなの鉄道沿線観光地を巡りました。

インバウンド誘客の今後の展望として、広域連携の必要性がますます強まると考えられます。今事業はその足がかりとして実施しました。これからも軽井沢周辺地域と協力しながら、インバウンド誘客増を図っていきます。

インバウンド部会



▲軽井沢アイスパークにてカーリング体験

『Ruizaちゃん!取材日記』

軽井沢イメージキャラクター Ruizaちゃん!



2018 軽井沢ウィンターフェスティバルに参加して

ここ数年、小学生の娘のダンスと吹奏楽部での出演のため毎年ウィンターフェスティバルへは足を運んでいましたが、今年のご縁あってイベント運営スタッフとマルシェ出店での参加をさせていただきました。もともとイベント好きの私なので、準備から当日のお手伝い、趣味で作っているアクセサリーの販売を楽しくやらせて頂きました!

裏方に回ってみて初めて知ったスタッフの方たちの苦勞や努力、土台を作り上げるといのはなかなか大変です。みなさんの連携プレーには驚くばかりでした。

初めて地域イベントにかかわらせて頂きましたが、自分が普段暮らしている地域の方々や軽井沢に訪れてくださる観光客の方々のために、微力ながらも協力出来たことをうれしく思いました。何よりも楽しく参加させて頂けたことに感謝しています!ありがとうございました。

軽井沢・冬ものがたり実行委員会 由井 美和



ワンちゃんとパールック&一芸コンテスト



2017年11月25日ウィンターフェスティバル「軽井沢冬ものがたり」のオープニングイベントの一環で、「ワンちゃんとパールック&一芸コンテスト」が駅前特設会場のステージで開催されました。10組のワンちゃんと飼主のペアは、それぞれ趣向を凝らした衣装で登場し得意の一芸を披露。愛犬とのぴったり息のあった一芸は、日々の楽しいコミュニケーションぶりが垣間見え会場全体が笑顔と拍手に包まれました。

事業委員会 西山 紀子

ラジオ特別番組企画【ホリデープログラム ウェルネスリゾート軽井沢】

軽井沢観光協会では、軽井沢スタイルのウェルネス・ツーリズムを推進しています。「ウェルネス」は幅広いジャンルに紐付いております。広報委員会では様々な視点からその可能性を探っていくラジオ特別番組企画がスタートしました。土屋会長が「標高 1,000mのウェルネスリゾート軽井沢」に素敵なお客様をお迎えして、ウェルネス談義をお届けする番組です。

番組の放送は不定期となりますが、これまで放送した番組は、「軽井沢観光協会公式YouTubeチャンネル」にアーカイブされていますので、ぜひお聴きください。



<https://karuizawa-kankokyokai.jp/news/25462/>

広報委員会 布川 洋平

軽井沢の話題あれこれ

軽井沢は「リゾート地?」「観光地?」ホスピタリティ講演会

2月7日午後2時～4時、中央公民館の大講堂で軽井沢観光協会主催「ホスピタリティ講演会」を開催しました。

タイトル:自分が変われば周りが変わる～組織と地域をデザインしよう～

講師:人とホスピタリティ研究所「高野登氏」(元ザ・リッツ・カールトンホテル 日本支社長)

参加者は、軽井沢町内外から約150名で、熱を帯びた講演会となりました。

講演内容をご紹介します。

- 軽井沢は「観光地?」「リゾート地?」その違いと、軽井沢が目指す方向

観光地は、一度行ってみたい名所や見てみたい景色の良いところで、一回限りのお客様が多い。リゾート地は、そこで過ごすために自分の大切な時間(=命)を使いに行くところで、何回も来訪するお客様が多い。

軽井沢がリゾート地であるならば、長期的な考えのもとで、10年後20年後を見据えた活動をしていくべきだと思います。

- 「おもてなしの原点」

会場内の皆で、「おもてなしの原点ゲーム」をしました。2人一組になり、最近食べて美味しかった食べ物を相手にすすめるゲームです。もちろん、皆さんうまく相手に伝えていましたが、「おもてなしの原点」とは何でしょうか。まず先に、相手の食べ物アレルギーや嫌いな食材を確認してから、自分が美味しいと思ったものをすすめるということではないでしょうか。

「おもてなし」という言葉の意味がわかっている、もてなすことの本当の意味に気づかないと本当のおもてなしはできません。

- 街づくりに使われるたとえの「若者」「よそ者」「馬鹿者」

若者とよそ者は、これから働き、街をつくり上げていきます。

馬鹿者(=知恵者)は、培った経験や知識や方法などの大切な事柄を、若者とよそ者に教え、育て導いていきます。

この三者が揃い、軽井沢の未来のことを考えながら進むことが、これからも世界に誇れる素晴らしい軽井沢を維持していくことにつながります。

この講演会の内容を参考にして、ホスピタリティあふれる街・軽井沢にしていきたいと思います。



未来構想委員会 坂井 博之

「ほっちNAViマップ」

軽井沢観光協会では「懐かしくて新しい原風景・体験型観光スポット」をコンセプトに、軽井沢町農産物等直売施設、軽井沢発地市庭を中心とするエリアマップ「ほっちNAVi」を制作いたしました。軽井沢の食文化発信地としての役割や、農業と観光を主眼とした内容となっており、周辺の体験施設のご紹介、周遊おすすめコースなども掲載した「食べる・見る・遊ぶ・楽しむ・買う・泊る」と盛りだくさんです。今注目の軽井沢の新スポット!【ほっち】へお出かけください。新たな発地エリアの魅力を再発見してみませんか?



イベントのご案内

【ほっちNAVi】発行記念として、軽井沢発地市庭では4月30日(月)発地エリアの新スポットやファームを巡るヘルスウォークを開催いたします。(詳細は【軽井沢発地市庭】公式サイトをご覧ください)

<http://karuizawa.hotchi-ichiba.com/>

広報委員会 細江 久美子

第3回軽井沢WEB検定

平成30年2月4日(日)5日(月)第3回軽井沢WEB検定が行われました。

軽井沢WEB検定は3回目となりますが、今回より1級の検定も始まりました。

1級合格認定バッジも制作し、合格者が購入可能になりました。(紙試験での1級合格者も購入可能です)軽井沢WEB検定は検定を受けることで、軽井沢のファンを作るだけでなくさらに軽井沢を好きになり、この町に住みたい、住み続けたい、もっと良い町にしたいという気持ちが芽生えます。検定を行うことで、魅力を実感できる「まちづくり」につなげたいと考えています。

軽井沢に長く住んでいらっしゃる方も、新しく軽井沢人になった方も検定を知り、楽しんでいただきたいです。特に観光業に携わる方が必要な資格として、積極的に受験していただきたいと願っています。

組織強化委員会 高見 康昭

平成29年度軽井沢WEB検定結果

	申込者数	受験者数	合格者	合格率
1級	12	12	1	8%
2級	11	11	6	55%
3級	72	69	34	49%
合計	95	92	41	45%

Wi-Fiの取り組みについて

町では訪れる国内・外の観光客の利便性のため、Karuizawa-Free-Wi-Fiの運用を昨年8月から開始しています。接続用のアプリは、「Japan connected-Free-Wi-Fi」で、それをダウンロードしメールアドレスやSNSのアカウントで1回ユーザー登録すれば、アクセスポイントのあるところではパスワードなしでインターネットに接続でき大変便利です。町の公共施設ではすでに整備済みですが、これからは民間施設での導入が待たれます。今後、観光協会では軽井沢町商工会など他団体と協力し、会員のみなさんや事業者にとって当該アクセスポイント設置のご協力をお願いしてまいります。



また軽井沢町からの紹介で、観光客の欲しい情報をスマートホンへ配信できるプレートを、オリックス(株)の負担で整備しました。基礎情報については観光協会が提供に協力しています。

すでに、観光会館や観光案内所には配置していますが、プレートのQRコードをスマートホンで読み取れば、必要な情報が確認できるというものです。今後プレートの数を増やし、訪れる観光客の皆さんの利便性の向上を図りたいと考えております。

事務局 岩井 昇

軽井沢エコツーリズムの推進について



エコツーリズムとは「自然環境や歴史文化を対象とし、それらを体験し学ぶとともに、対象となる地域の自然環境や歴史文化の保全に責任を持つ観光のあり方」です。

軽井沢町では、このエコツーリズムの推進に向けて、本年1月に「軽井沢町エコツーリズム推進協議会」を設立いたしました。

当面は、信濃路自然歩道・小瀬林道周辺・旧碓氷峠遊覧歩道・中山道を中心に、協議会の皆様からご意見をいただきながら、軽井沢の自然環境の特色を活かしたエコツアー商品の造成を目指してまいります。

また、自然環境や歴史文化の保全についてルールを作り、環境への配慮を行いつつ当町の自然環境の魅力を発信してまいりたいと考えておりますので、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

軽井沢町観光経済課 岩井 成年

「平成29年度軽井沢写真コンテスト」



グランプリ 「浅間幻想」



準グランプリ 「清流」

H29年度のテーマは「軽井沢町内で撮影した風景及び四季の風景に溶け込む自然な表情の人物」。応募数は64名113点。皆様おめでとうございます。平成30年度も実施しますので多くの皆様からのご応募をお待ちしております。



グランプリ：山口敬一様 浅間幻想
 準グランプリ：村田則一様 清流
 入選2点：丸山純一様 紅葉敷く参道
 佐藤胸勝様 秋を写す
 佳作3点：鈴木寿男様 朝のアリア
 関矢俊夫様 冬日
 渡辺鉦三様 夕化粧

「平成30年度 軽井沢
写真コンテスト概要」



軽井沢観光協会 会員募集

約500社の協会員と一緒に、軽井沢を盛り上げましょう!!

特典 町内各案内所へ御社のパンフレット設置
 観光協会ホームページへのバナーやリンクなど広告ツール掲載可能
 イベントや研修会、商談会など開催案内 など



HP <https://karuizawa-kankokyokai.jp/>
 FB <https://www.facebook.com/karuizawa.info/>

HP

FB



行事のご案内 (春～夏) イベント情報は観光協会 HP(<http://karuizawa-kankokyokai.jp>) をご覧ください

行 事 名	期 間	公 式 H P
2018年 軽井沢若葉まつり	平成30年4月28日(土)～6月10日(日)	www.town.karuizawa.lg.jp/

○写真コンテスト ○芽吹きの軽井沢を歩こう ○軽井沢ハーフマラソン ○ジーロ・デ・軽井沢 ○グランfond軽井沢 など楽しい華やかなイベント満載です。是非、春から初夏の軽井沢をお楽しみ下さい。

※最新情報は各行事とも公式 HP をご覧下さい